

新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる  
障がい者に対する合理的配慮の提供について

## 視覚に障がいがある自宅療養者に対する対応について（経緯）

- ・今年4月、視覚障害のある方が新型コロナウイルス陽性となり、保健所から自宅療養を指示された。
- ・道庁から「自宅療養セット」として段ボール三箱分の支援物資が届いたが…
  - 内容物の一覧が確認できない
  - 同じような形のレトルト食品やカップがあり、さわって区別できない
- ・毎日の体調、体温、血中酸素濃度を測って連絡するよう指示されたが…
  - 音声読み上げのできないパルスオキシメーターが入っていて、体温や血中濃度の数値が分からない

といった問題点があったため、北海道視覚障害者福祉連合会に相談。本庁の感染症対策課などが対応し、次ページ①～③のような対策を取ることとなった。

## 視覚に障がいがある自宅療養者に対する対応について

【北海道視覚障害者福祉連合会(以下、「道視連」という。)に相談】

- ・ 事務局に相談し、また、道視連の事務局長や道視連から紹介された全盲の視覚障がい者にも意見をもらった。

### ① しおりの点字化

- 一般に配布している「しおり」を点字化用に原稿作成
- 原稿 1 ページ(576字) → 点訳 3 ページ(B5版)

### ② 商品一覧の点字化、拡大文字化及び音声コードの掲載

- 点字を読める視覚障がい者は思ったより少ないとのこと  
→ 弱視の方に拡大文字(16～18ポイント)  
→ 同じ用紙に音声コード(専用のアプリもしくは福祉用具で読み取り可能)を掲載

### ③ 商品名ラベルを貼り付け

- 手にしている商品が何か分からないことが一番の問題。よって、商品に商品名ラベルを貼り付けることとした。
- 道視連ではラベル作成の受託実績が無いため、協議しながら作成を依頼(点字用テブラ)。
- ラベルを貼り付けるにあたり、商品の左側が良いとのアドバイスあり。  
(点字読む人は左手で読むことが多いとのこと)。また、切り口がある場合はラベル貼付はその付近が良いとのこと。

### ④ パルスオキシメーターの用意(検討中)

- (良い点)電源「入」で電子音「ピッ」となる。
- (良い点)基準値を設定し、計測結果が異常値だった場合、「ピッ、ピッ」と警告音が断続的に鳴り続ける。
- (悪い点)電源が5秒放置で自動的に「OFF」、電源が切れた時と測定が終わった時に電子音がなく、どういふ状態か分からずらい。